

ウンカ類情報第1号

令和6年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカが予察灯で誘殺されました セジロウンカの発生量はやや多い状況です

1 トビイロウンカ及びセジロウンカの飛来予測

日本植物防疫協会提供の飛来予測によると、本県へのトビイロウンカ及びセジロウンカの飛来に適した気象条件は、7月2日時点で6月23日（図）と6月24日、6月28日、7月4日（本県に到着見込み）の計4回出現しています。

2 トビイロウンカの発生状況

7月2日に、長久手市に設置した予察灯において雌成虫が1頭誘殺されました。なお、6月下旬の巡回調査では本田での発生を確認していません。県内の他地域にも飛来している可能性がありますので、今後、発表するトビイロウンカに関する情報を参考に、発生動向に十分注意してください。

3 セジロウンカの発生状況

6月下旬の本田すくい取り調査において、83ほ場中8ほ場で成虫が捕獲されました。また、本田払い落とし調査において、85ほ場中3ほ場で成幼虫が捕獲されました。捕獲虫数はすくい取りで平年に比べてやや多く、払い落としで平年並です（表）。

予察灯では、6月24日に長久手市で2頭、大口町で2頭、豊川市で1頭、7月2日に長久手市で4頭誘殺されています。

ほ場ごとに発生量が異なると考えられるため、ほ場をよく観察し、発生量が多い場合は防除しましょう。今後、斑点米カメムシ類の防除時期に入りますので、同一薬剤の連用にならないよう計画的に薬剤を選択しましょう。なお、本県で栽培されている「あいちのかおり SBL」や「あさひの夢」はセジロウンカ殺卵反応（注）が弱い品種であるため、注意をしてください。

（注）セジロウンカの産卵によって殺卵物質が生成されるイネの生体防御反応

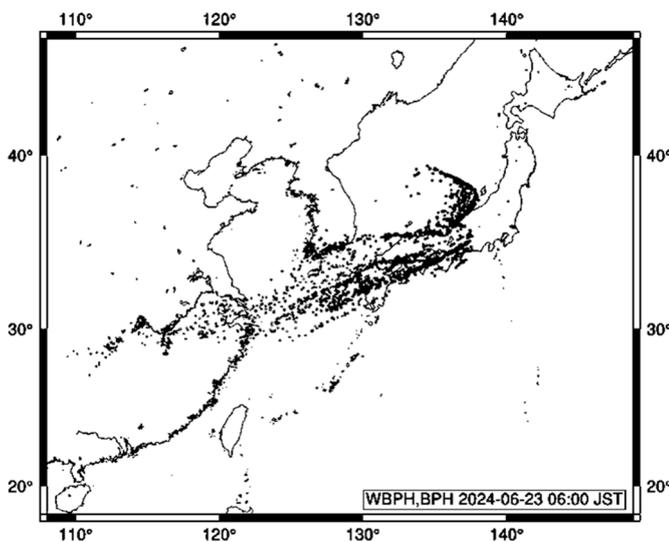


図 ウンカ類飛来予測図（6月23日6時）

提供：JPP-NET

表 セジロウンカの6月下旬本田調査結果
（1ほ場当たり平均捕獲虫数（単位：頭））

調査方法	成虫	幼虫	計
捕虫網による	0.14	0.07	0.22
20回すくい取り	(0.07)	(0.01)	(0.08)
水稻10株の 払い落とし	0.05	0.04	0.08
	(0.03)	(0.11)	(0.14)

（ ）内は、平年値（平成26～令和5年の平均）